



第 36 回
全日本社会人馬術選手権大会
ファイナル

プ ロ グ ラ ム

- と き: 平成 30 年 3 月 24 日(土) ~ 3 月 25 日(日)
と ころ: 馬術苑 中島トニアシュタール
主 催: 日本社会人団体馬術連盟
協 賛: レッキス工業株式会社
後 援: 日本中央競馬会
公益社団法人 日本馬術連盟
茨城県
日本中央競馬会 助成事業

大会役員

大会会長 山口 昇
大会副会長 丹澤 太良 高橋 宗和
大会顧問 千 玄室 木村 一人 斎藤 十朗 宮川 恭一
駒井 雅夫 樋口 正明 新垣 恒則 長島 修二
参 与 内田 忠 平井 雅郎 袋 敏洋 合田 功
松元 庸子 小島 久昌 浅野 純子 河田 みさ子
大会委員長 森下 力
大会副委員長 児玉 彰
審 判 長 高桑 浩彰
審 判 員 児玉 彰 堀田 裕子 浅野 純子 市岡 貴子 鈴木 貴晴
救護看護 渡部由樹子
救護獣医師 西村 仁
コースデザイナー 為貝 幸央
チーフスチュワード 高岸 多喜二
スチュワード 高宮 勇治 野川 拓三 細川 浩志
競技委員長 久保 知之
競 技 委 員 塩野 敦子 笠 七美花 若松 麻里 栗原 理
団体派遣役員
馬 匹 管 理 団体派遣役員
記 録 小林 達也 龍 家圭 早田 幸彦
賞 典 小穴 幸子 鈴木 あみ
総務会計 能勢 満司
馬匹提供団体 中島トニアシュタール 壬生乗馬クラブ
フジホースライディングクラブ
運 営 協 力 中島トニアシュタール 茨城大学乗馬同好会
賞 品 協 力 ワールドマーケット

(順不同、敬称略)

第 36 回 全日本社会人馬術選手権大会 ファイナル スケジュール

日付	ドレッシング	ジャンピング
3/24 (土)	8:45 審判・馬匹提供団体集合:打合せ 9:00 役員・馬取扱者集合 9:30 選手集合:抽選連絡事項伝達 【1回戦】1鞍目 10:00 使用馬匹準備運動開始(4頭) 10:30 競技開始(8鞍×2面) 11:34 競技終了 馬匹手入れ	11:30 CD コース確認
		12:45 審判・馬匹提供団体集合:打合せ 13:00 役員・馬取扱者集合 13:15 選手集合:抽選、連絡事項伝達 コース下見 【1回戦】 13:50 使用馬匹準備運動・試走(8頭) 14:20 競技開始(32鞍) 15:24 競技終了 準決勝抽選、コース組換・馬場整備
3/25 (日)		コースオープン 7:45 審判・馬匹提供団体集合:打合せ 8:00 役員・馬取扱者集合 8:15 選手集合 連絡事項伝達 【準決勝】 8:50 使用馬匹準備運動・試走(4頭) 9:20 競技開始(16鞍) 9:52 競技終了コース組換・決勝抽選・コース下見 【決勝】 10:20 使用馬匹準備運動・試走(2頭) 10:40 競技開始(8鞍) 11:05 競技終了 11:20 表彰式
	11:30 審判・馬匹提供団体集合:打合せ 11:40 役員・馬取扱者集合 11:55 選手集合 連絡事項伝達 【1回戦】2鞍目 12:10 使用馬匹準備運動(4頭) 12:40 競技開始(8鞍×2面) 13:45 競技終了 14:15 成績発表・決勝抽選 【決勝】 14:15 使用馬匹準備運動(2頭) 14:45 競技開始(8鞍×1面) 15:45 競技終了 16:15 表彰式	

第 36 回 全日本社会人馬術選手権大会 ファイナル ドレッシング
出場選手・派遣役員・馬取扱者

No.	選手氏名	所属団体	派遣役員	馬取扱者
1	安部 純澄	皇宮警察本部	坂本 亮太	---
2	水田 貴	皇宮警察本部		
3	小穴 幸子	YS 乗馬同好会	選手兼任	加賀見 直子
4	中岡 義晴	スリーエムジャパン馬術愛好会	選手兼任	---
5	早川 太郎	トッパン・フォームズ(株)馬術部	服部 なな	細川 浩志
6	大鳥井 浩一	トッパン・フォームズ(株)馬術部		
7	若島 恵介	トッパン・フォームズ(株)馬術部		
8	増田 昇	警視庁乗馬同好会	弓削 圭佑	水田 昭子
9	佐伯 俊彦	JR 東海馬術部	選手兼任	---
10	木村 郁実	東京都庁体育会乗馬部	能勢 満司	周郷 裕子 田中 郁里
11	角田 真紀	パナソニック馬術部	鶴見 直大 武田 美樹子	浜松 秀明 中村 善彦
12	大島 由美子	パナソニック馬術部		
13	堀 豊	パナソニック馬術部		
14	西村 仁	日本農産工業(株)馬術部	選手兼任	---
15	鳥塚 鈴子	TMG 乗馬同好会	水野 史朗	鳥塚 修
16	久保 知之	日本アイ・ビー・エム(株)馬術部	栗原 理	江上 款 安居 淳一

第 36 全日本社会人馬術選手権大会 ファイナル ジャンピング
出場選手・派遣役員・馬取扱者

No.	選手氏名	所属団体	派遣役員	馬取扱者
1	大鳥井 浩一	トッパン・フォームズ(株)馬術部	早川 太郎	小幡 圭一 柳 将徳
2	服部 なな	トッパン・フォームズ(株)馬術部		
3	若島 恵介	トッパン・フォームズ(株)馬術部		
4	小寺 夏鈴	伊藤忠商事相互会乗馬部	選手兼任	笠 七美花
5	佐藤 充	皇宮警察本部	安部 純澄	塩野 敦子
6	水田 貴	皇宮警察本部		
7	坂本 亮太	皇宮警察本部		
8	田中 希	警視庁乗馬同好会	三浦 敬次郎	奥山 雅樹
9	弓削 圭祐	警視庁乗馬同好会		
10	鶴見 直大	パナソニック馬術部	大島 由美子	竹村 博行
11	角田 真紀	パナソニック馬術部		
12	堀 豊	パナソニック馬術部		
13	鈴木 あみ	エグゼクティブコーチ(株)馬術部	選手兼任	谷津 芳樹
14	佐伯 圭一	(株)日立国際電気馬術部	小林 達也	若松 麻里
15	竹本 有希	(株)日立国際電気馬術部		
16	新納 力也	SOMPO ホールディングス馬術部	児玉 彰	河津 玲子 丸山 聖子

第36 全日本社会人馬術選手権大会 ファイナル ドレスサージュ 実施要綱

1. 出場資格

先に実施した予選競技会(第36回全日本社会人馬術選手権大会 スプリング及び同オータム)において本大会の出場権を獲得した者又は第35回全日本社会人馬術選手権大会 ファイナルにおいて獲得した出場シード権を行使し本大会のシード選手となった者で、大会開催時点で本連盟の会員資格を有する個人とする。

2. 競技種目

1 回戦: 日本社会人団体馬術連盟制定 全日本社会人馬術選手権大会馬場馬術課目 2015
(旧 日本馬術連盟 第3 課目 1993 改)

決 勝: 日本馬術連盟制定 馬場馬術運動課目 L1 課目 2013

3. 競技方法

競技規定は、国際馬術連盟馬場馬術競技会規程第25版及び日本馬術連盟競技会規程第28版を採用する。使用予定馬が故障などにより使用不能となった場合、競技前・途中の如何を問わず、予備馬による再演技を行う。ただし、馬匹の故障が選手に起因すると思われる場合には、当該選手の再演技を認めない場合がある。

(1) 1 回戦

ア 出場資格のある選手を、1 ブロック 4 名からなる 4 ブロックに分け、各ブロックに 2 頭の馬匹を割り当て、各選手はそれぞれの馬匹に騎乗し、演技を行う(24 日・25 日各 1 鞍で行う)。

イ 2 鞍の得点率を平均したものをその選手の最終得点率とする。

(2) 決勝戦

ア 1 回戦の各ブロックの第 1 位 4 名が 2 頭に騎乗して演技を行う。

イ 2 鞍の得点率を平均したものをその選手の最終得点率とする。

4. 順位の決定

(1) 個人順位

ア 1 回戦の最終得点率の高い選手を上位とする。

イ 1 回戦の各ブロックの第 1 位の選手 4 名はさらに決勝戦を行い、その最終得点率の高い者を上位とする。

ウ 5 位以下については、1 回戦の順位をもって決定する。

エ 最終得点率が同じ場合は、全審判員の総合観察点の合計得点の高い選手を上位とする。

オ エで決まらない場合は、C 点審判員の総合観察点の合計得点の高い選手を上位とする。

カ オで決まらない場合は、1 鞍の最も高い得点率を得た選手を上位とする。

(2) 団体順位

ア 1 回戦の上位 2 名の成績により順位を決定する。

- イ 上位 2 名の最終得点率の平均が高い団体を上位とする(平均得点率)。
- ウ 平均得点率が同じ場合は、上位 2 名の全審判員の総合観察点の合計得点の高い団体を上位とする。
- エ ウで決まらない場合は、上位 2 名の C 点審判員の総合観察点の合計得点の高い団体を上位とする。
- オ エで決まらない場合は最も高い得点率を得た選手の所属する団体を上位とする。

5. 表彰

(1) 個人表彰

- 決勝戦 第 4 位までを入賞とし、表彰する。

(2) 団体表彰

2 名以上の選手が出場する正会員団体が 3 団体以上ある場合、それらの団体について団体表彰を行う。

- 第 3 位までを入賞とし、表彰する。

(3) 馬匹表彰

- 最優秀馬匹賞 1 頭

6. シード権の獲得

本大会における優勝者および準優勝者は、次年度に開催される第37回全日本社会人馬術選手権大会シリーズにおけるシード権を得る(優勝者：スプリング枠シード権、準優勝者：オータム枠シード権)。シード権を得た選手は、同大会シリーズの開催通知後、エントリー締め切りまでにシード権の行使を宣言することで、同大会ファイナルに係るシード選手となる。

シード権の行使を宣言しない場合には、他の選手と同様に、同大会シリーズの予選競技会にエントリーすることができる。

なお、シード権獲得選手がシード権を行使しない場合のシード権の繰上げなどは行わない。

7. その他

- (1) 参加者・馬取扱者・観覧者の事故疾病について、主催者は応急処置をするが、その責は負わない。また、出場選手は、何らかの傷害保険に加入していること。
- (2) 出場選手の技術の向上、事故防止に心がけること。危険防止の観点から、主催者及び審判団の協議に基づき改善を指導する場合がある。
- (3) 出場者数及び馬匹その他の理由により、やむを得ず要綱及び日程等の一部を変更して実施する場合がある(競技の詳細などについては、当日の打合わせにおいて説明する)。
- (4) 拍車は、丸拍又は棒拍とし、審判長の指示により着用を認めない場合がある。
- (5) 準備運動は 5 分以内とする。

第36回 全日本社会人馬術選手権大会 ファイナル ジャンピング 実施要綱

1. 出場資格

先に実施した予選競技会(第36回全日本社会人馬術選手権大会 スプリング及び同オータム)において本大会の出場権を獲得した者又は第35回全日本社会人馬術選手権大会 ファイナルにおいて獲得した出場シード権を行使し本大会のシード選手となった者で、大会開催時点で本連盟の会員資格を有する個人とする。

2. 競技種目

障害飛越競技(高さ 100cm まで)

3. 競技方法

競技規定は、国際馬術連盟障害飛越競技会規程第25版及び日本馬術連盟競技規程第28版、国民体育大会馬術競技規程(第70回)(失権者の減点算法)を採用する。2反抗失権とし、基準タイム及び早着減点の設定など一部ローカルルールを採用する。使用予定馬が故障などにより使用不能となった場合、競技前・途中の如何を問わず、予備馬による再走行を行う。ただし、馬匹の故障が選手に起因すると思われる場合には、当該選手の再走行を認めない場合がある。

- (1) 出場資格のある選手を、1ブロック4名からなる4ブロックに分け、各ブロックに2頭の馬匹を割り当て、各選手はそれぞれの馬匹に騎乗し、2鞍の総合成績によって勝敗を決する。各ブロックの上位2名が準決勝へ進出する。
- (2) 準決勝も1回戦と同様に4名からなる2ブロックに分け、各ブロックの上位2名が決勝戦へ進出する。
- (3) 決勝戦は4名がそれぞれ2頭の馬匹に騎乗し、2鞍の総合成績によって勝敗を決する。

4. 順位の決定方法

- (1) 選手の騎乗成績の合計により各ブロック内の順位を決定する。
- (2) 各ブロック内の順位は、次の者を上位とする。
 - ア 減点の少ない者
 - イ 減点合計が同点の場合は、各走行タイムの基準タイムとの差の絶対値の合計の少ない者
 - ウ イで決まらない場合は、減点0の多い者
 - エ 以上で決まらない場合は、抽選とする。
- (3) 決勝戦はFEI規程238条2-1による。

5. 表彰

- (1) 個人表彰
 - 決勝戦 第4位までを入賞とし、表彰する。
- (2) 馬匹表彰
 - ア 最優秀馬匹賞 1頭

6. シード権の獲得

本大会における優勝者および準優勝者は、次年度に開催される第37回全日本社会人馬術選手権大会シリーズにおけるシード権を得る(優勝者：スプリング枠シード権、準優勝者：オータム枠シード権)。シード権を得た選手は、同大会シリーズの開催通知後、エントリー締め切りまでにシード権の行使を宣言することで、同大会ファイナルに係るシード選手となる。

シード権の行使を宣言しない場合には、他の選手と同様に、同大会シリーズの予選競技会にエントリーすることができる。

なお、シード権獲得選手がシード権を行使しない場合のシード権の繰上げなどは行わない。

7. その他

- (1) 参加者・馬取扱者・観覧者の事故疾病について、主催者は応急処置をするが、その責は負わない。また、出場選手は、何らかの傷害保険に加入していること。
- (2) 出場選手の技術の向上、事故防止に心がけること。危険防止の観点から、主催者及び審判団の協議に基づき改善を指導する場合がある。
- (3) 出場者数及び馬匹その他の理由により、やむを得ず要綱及び日程等の一部を変更して実施する場合がある(競技の詳細などについては、当日の打合わせにおいて説明する)。
- (4) 拍車は、丸拍又は棒拍とし、審判長の指示により着用を認めない場合がある。
- (5) 準備運動は3分2飛越とする。クロス障害が設置されている場合はその飛越回数を除く。
- (6) 準備運動場における飛越回数オーバーは失権、逆標旗飛越はその都度罰金3万円を課す。
- (7) 1回戦および準決勝で敗退した選手は、競技役員としてその後の大会運営を手伝うこと。特に第1日目1回戦で敗退した選手は、必ず第2日目も運営に参加すること。

歴 代 成 績

個人選手権 第1回(1983年)～第19回(2001年)

回次・開催年	優勝	回次・開催年	優勝
第1回(1983年)	田坂 信	第11回(1993年)	増田 昇
第2回(1984年)	丹沢 太良	第12回(1994年)	藤谷 真由美
第3回(1985年)	丹沢 太良	第13回(1995年)	斎藤 智生
第4回(1986年)	松本 美紀	第14回(1996年)	加藤 有大
第5回(1987年)	細田 壮一	第15回(1997年)	石原 崇
第6回(1988年)	松本 美紀	第16回(1998年)	高橋 宗和
第7回(1989年)	小山 香	第17回(1999年)	石原 崇
第8回(1990年)	長谷川 雄二	第18回(2000年)	上村 毅
第9回(1991年)	小山 香	第19回(2001年)	岸 俊樹
第10回(1992年)	中村 敏昭		

JBG 選手権大会 第1回(2002年)～第4回(2005年)

	ジャンピング	ドレッサージュ	ドレッサージュ 団体
第1回(2002年) JRA馬事公苑			
優勝	大鳥井 浩一	藤森 香織	富士通乗馬部
準優勝	平林 小秋	小島 久昌	東京都庁体育会乗馬部
第3位	石原 崇	中村 善彦	伊藤忠商事相互会乗馬部
第4位	菅谷 吉樹	岸 俊樹	-
第2回(2003年) JRA馬事公苑			
優勝	森谷 祥司	小島 久昌	特別区文化体育会乗馬部
準優勝	大鳥井 浩一	鳥塚 鈴子	松下電工馬術部
第3位	竹村 博行	小宅 俊継	警視庁乗馬同好会
第4位	増田 昇	長町 佳昌	-
第3回(2004年) JRA馬事公苑			
優勝	森谷 祥司	豊田 隆司	警視庁乗馬同好会
準優勝	近藤 英之	中岡 義晴	伊藤忠商事相互会乗馬部
第3位	嵯峨 友規	増田 昇	日本アイ・ビー・エム馬術部
第4位	倉田 昌雄	久保 知之	-
第4回(2005年) JRA馬事公苑			
優勝	菅谷 吉樹	豊田 隆司	警視庁乗馬同好会
準優勝	森谷 祥司	増田 昇	特別区文化体育会乗馬部
第3位	與儀 七恵	児玉 彰	富士通乗馬部
第4位	山口 紗世	中岡 義晴	-

JBG 選手権大会 第5回(2006年)～第11回(2012年)

	ジャンピング	ドレッサーージュ	ドレッサーージュ 団体
第5回(2006年) JRA 馬事公苑			
優勝	山口 紗世	児玉 彰	警視庁乗馬同好会
準優勝	伴 茂樹	豊田 隆司	特別区文化体育会乗馬部
第3位	竹松 弘継	内門 小秋	東京都庁体育会乗馬部
第4位	松下 浩之	鳥塚 鈴子	-
第6回(2007年) JRA 馬事公苑			
優勝	上村 優一郎	児玉 彰	富士通乗馬部
準優勝	久保 知之	山口 紗世	特別区文化体育会乗馬部
第3位	三田寺 慎一	豊田 隆司	警視庁乗馬同好会
第4位	高橋 宗和	内門 小秋	-
第7回(2008年) 山梨県馬術競技場			
優勝	山本 宏二	児玉 彰	警視庁乗馬同好会
準優勝	仙名 翼	平林 小秋	トッパン・フォームズ馬術部
第3位	久保 知之	大鳥井 浩一	日立国際電気馬術部
第4位	渡邊 綾子	山邊 真一	-
第8回(2009年) JRA 馬事公苑			
優勝	平林 小秋	豊田 隆司	富士通乗馬部
準優勝	山本 宏二	中岡 義晴	警視庁乗馬同好会
第3位	鈴木 麻美	大鳥井 浩一	特別区文化体育会乗馬部
第4位	山岸 広史	山口 紗世	-
第9回(2010年) JRA 馬事公苑			
優勝	塚田 隆彦	渡辺 脩	特別区文化体育会乗馬部
準優勝	上村 優一郎	久保 知之	パナソニック電工馬術部
第3位	早川 太郎	山邊 真一	東京都庁体育会乗馬部
第4位	馬場 毅	山口 紗世	-
第10回(2011年) JRA 馬事公苑 - 東日本大震災のため中止			
第11回(2012年) JRA 馬事公苑			
優勝	大鳥井 浩一	渡辺 脩	パナソニックエコソリューションズ馬術部
準優勝	田原 孝幸	関 美雪	日本馬事普及馬事研究部
第3位	龍 家圭	北村 美緒	東京都庁体育会乗馬部
第4位	渡邊 光子	安藤 洵	-

全日本社会人馬術選手権大会 第31回(2013年)～

	ジャンピング	ドレッサーージュ	ドレッサーージュ 団体
第31回 (2013年) JRA 馬事公苑			
優勝	若松 麻里	筒江 麻亜耶	社会人昭和大学ライディングチーム
準優勝	脇田 昌宣	田代 綾子	警視庁乗馬同好会
第3位	棟居 裕尚	脇田 昌宣	東京都庁体育会乗馬部
第4位	森岡 裕子	市川 裕一	-
第32回 (2014年) JRA 馬事公苑			
優勝	金子 春起	田代 綾子	警視庁乗馬同好会
準優勝	西村 仁	佐伯 圭一	日立国際電気馬術部
第3位	中尾 昌代	加来 賢一	パナソニック馬術部
第4位	渡邊 光子	関 美雪	-
第33回 (2015年) JRA 馬事公苑			
優勝	金子 春起	大鳥井 浩一	-
準優勝	伴 茂樹	田代 綾子	-
第3位	竹本 有希	水田 貴	-
第4位	片岡 宗一郎	増田 昇	-
第34回 (2016年) JRA 馬事公苑			
優勝	飯田 茂幸	大鳥井 浩一	警視庁乗馬同好会
準優勝	小穴 幸子	木村 郁実	皇宮警察馬術部
第3位	大鳥井 浩一	増田 昇	トッパン・フォームズ馬術部
第4位	片岡 宗一郎	久保 知之	-
第35回 (2017年) 馬術苑 中島トニアシュタール			
優勝	大鳥井 浩一	安部 純澄	
準優勝	碓井 滋敏	小穴 幸子	
第3位	小幡 圭一	大島 由美子	
第4位	久保 知之	佐伯 圭一	

馬のウェルフェアのための馬スポーツ憲章



国際馬術連盟(FEI)は、国際的な馬スポーツに係わるすべての者が、FEI馬スポーツ憲章を遵守し、いかなる場合にも馬のウェルフェアが最優先され、決して競技の勝敗または商業的な影響を受けてはならないことに同意し、これを受け入れることを求めるものである。

1. 競技出場への準備段階や競技馬の調教段階のいずれの時点においても、馬のウェルフェアが他のどのような要求よりも優先されなければならない。
2. 競技馬と選手は競技出場の許可を得る前に、コンディションが良好で競技参加にふさわしい状態にあり、健康状態も良好でなければならない。
3. 競技会が馬のウェルフェアを損なってはならない。
4. 競技参加後の馬が十分な手入れをされること、また現役を退いた馬が人道的な扱いを受けるための最大限の努力をしなければならない。
5. FEIは馬術スポーツに係わるすべての者が、競技馬のケアおよび管理に関連する各々の専門分野において、可能な限り高いレベルに到達するよう推進する。

FEI CODE OF CONDUCT FOR THE WELFARE OF THE HORSE - FEI
http://www.fei.org/system/files/Code_of_Conduct_Welfare_Horse_1Jan2013_0.pdf

FEI馬スポーツ憲章 - 日本馬術連盟
http://www.equitation-japan.com/about_02.html

基本原則と理念 - 日本社会人団体馬術連盟
<http://www.jbg.jp/about/principle>

<< 必読 >>

社会人 貸与馬戦の心得

ウィークエンドライダーが中心の社会人にとって、誰が乗るかわからない競技に大切な馬を貸して下さる乗馬クラブや大学は、とてもありがたいものです。また、これらの馬がいなくなれば、我々の競技会は1試合も成り立ちません。皆様が、一戦一戦大切に乘って下さることで、貸して下さる乗馬クラブや大学との繋がりも広がります。社会人だからこそ、皆様の良識と経験を頼りに競技会を開催しておりますが、以下の点につきまして特に皆様のご理解を頂きたいと思えます。

1. 馬を大切にしてください。

馬は、1回限りの使い捨て自転車ではありません。会ったこともない自分のために、力を尽くして競技してくれるのです。自分の馬と同じように扱い、丁寧に乗りましょう。その場の成績に目がくらんで、行き過ぎた騎乗をしないように気遣いましょう。

2. 貸して下さる団体の方に挨拶を。

参加費を払っていても、馬を借りることはありません。馬にもそうですが、貸して下さる方にも、乗る前の「よろしくお願ひします」乗った後の「ありがとうございました」の一言を忘れずに。競技の結果で挨拶が変わるようでは社会人の名が泣きます。

3. 馬の悪口を言わない。

競技はミズモノです。常に誰かが負け、誰かが勝ちます。原因はあなたかも知れないし、馬かも知れない。単に折り合いが悪いのかも知れないし、運が悪かったのかも知れない。どんな結果でも、次へつながるものへとしたいですね。「勝てば馬のせい、負ければ自分のせい」は全世界共通の馬乗りの基本です。ましてや、借りている馬に対し悪くいうのはもつてのほか。品位を疑われてしまいます。

4. 最後まで面倒を見ましょう。

馬装を目の前でしていても前でぼーっと見ていたり、汗だらけの馬をそのまま渡したりせず、競技時間の許す限りは最優先で馬の面倒を見ましょう。どこの、誰の馬でも、その時に自分が乗ったら、手入れまでが自分の責任です。できない場合には、一言、やったださる方に断りましょう。「社会人に貸すと馬ピカピカにして返してくれるんだよな」こんな言葉がいつか聞けるといいですね。

お互いに気持ちよく、楽しく競技をしたい、というのは、共通の願ひだと思えます。社会人競技のこれからの発展のためにも、皆で協力していきましょう。一人一人の小さな行動が、社会人馬術の未来へつながっているのです。

皆様のご協力に心より感謝いたします。

大会会場(馬術苑 中島トニアシュタール)施設図



③C 馬場:ジャンピング準備馬場及び本馬場

④D 馬場:ドレッサージュ A 面/ジャンピング乗替・準備運動待機馬場

⑤E 馬場:ドレッサージュ B 面

⑨事務所:大会本部、記録室、審判控室

教室:選手控室

※上記以外の施設、馬場には立ち入らないようお願いします。

HALLWAY FEEDS

Sport Horse / Stud / Nursery / Racing Products

競走馬用配合飼料シリーズ

詳しくは [REX配合飼料](#) ▶ 検索



HALLWAY FEEDS 社
アメリカで1964年創業。日本、アメリカ、ヨーロッパ、シンガポールなどに、常にハイクオリティな飼料を提供し、競馬界、馬術会で多くの信頼を集めている飼料販売会社。



レース 13

米国で多くの勝ち馬を育てた競走馬用配合飼料

●たんぱく質、脂肪、ビタミン、ミネラルが十分に配合されており、調教やレースに耐え得る強い馬がつけれます。



主な使用原料
エン麦、とうもろこし、大豆、ビートパルプ、アルファルファ、おまに粉、糠、食塩、ビタミン類、ミネラル類など
内容量：約22.5kg



プレップ 14

食の細い馬や消化器の弱い競走馬用配合飼料

●たんぱく質、脂肪、ビタミン、ミネラルを多く配合しており少量の消化で体力を回復させます。



主な使用原料
エン麦、正ペんエン麦、とうもろこし、ビートパルプ、糠、野菜油、大豆粉、大豆粕、大豆芽芽に粉、発酵支那粉、乾燥アルファルファ、ミネラル類、ミネラルオイルなど
内容量：約22.5kg



スタム 30

繁殖牝馬、子馬、育成馬用サプリメント

●たんぱく質、ビタミン、ミネラルを濃縮したサプリメントです。
●使いやすいペレット状で、消化効率が高く、他の飼料とも混ぜやすくなっています。



主な使用原料
糠、ベジタブルオイル、アルファルファ粉大豆粉、えん麦粉、おまに粉、でんぷん、魚、リン酸カルシウム、その他ミネラルサプリメントなど
内容量：約22.5kg

多目的馬房敷材

ロイヤルラバーマット

- 馬の洗い桶の滑り防止
- 厩舎の内壁材
- 厩舎遊歩床材
- 馬道床材
- 馬車内壁材
- ウォーキングマシンの内壁材 など



馬を危険から守る経済的な馬房敷材

英国をはじめヨーロッパ各地の乗馬場・牧場等で、厩舎床への敷材としてや、その他、様々な用途に使用されています。

床に

壁に

- ゴム特有の弾性、クッション性により、馬の脚への衝撃を緩和します。
- 馬体の接触時にも柔らかい感触で安心です。
- 耐久性に優れ、また、清掃が容易で美観も長期的に保てます。



サイズ(縦×横×厚)
約1,200×1,800×12 mm 重量
約32 kg

●カッタータイプ等で簡単に切断できます。

REX

www.rexind.co.jp

販売元 **ロッキス工業株式会社**

ホースアメニティ事業部

〒520-3026 滋賀県栗東市下鈿225-1
TEL 077-554-3197 FAX 077-554-4130

・商品に関するご質問等、お気軽にお問い合わせください。

日本社会人団体馬術連盟 (社馬連/JBG)

- Japan Business Group Equestrian Federation

〒104-0033 東京都中央区新川 2-6-4 新川エフ 2 ビル 6F

TEL: 03-3297-5630 FAX: 03-3297-5636 Email: shabaren@jbg.jp

Homepage: <http://www.jbg.jp/> - 加盟団体募集中です

twitter: http://twitter.com/JBG_Shabaren - 最新情報や馬に関するつぶやき

Facebook: <http://www.facebook.com/JBG.Shabaren> - 最新情報はこちらからも

YouTube <https://www.youtube.com/user/JBGShabaren> - 過去の大会ビデオなど

USTREAM: <http://www.ustream.tv/channel/shabaren> - 大会の中継など